

麻疹・風疹 予防接種

麻疹（はしか）は命にもかかわる重大な感染症。風疹はもし妊娠初期の女性がかかると、胎児に奇形が生じてしまう可能性があります。いずれも2回のワクチン接種を確実に受けて、しっかり免疫をつけましょう。

成人男性が風疹にかかることが少なくないため、2019年度から成人男性の予防接種を行っています（麻疹・風疹混合ワクチンを使います。3年間限定でしたが、さらに3年間延長されました）。自治体からの案内をよくご覧下さい。



予防接種の注意・お願い

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

- 受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知ってほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からないことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。
- 健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。
- 前日は入浴して、体を清潔に。
- 予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。
- 母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）
- 接種の会場で、体温を測り、記入します。
- 予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見てください。
- 接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。



【麻疹】麻疹はとても症状の重いウイルスによる感染症です。伝染力も大変に強く、次々に流行していきます。

10日ほどの潜伏期のあと、最初は風邪のような熱、咳（せき）、鼻水がでますが、3日目ぐらいから40度ぐらいの高熱、ひどい咳、そして発疹（ほっしん、赤いブツブツ）が全身にでてきます。大変に全身状態が悪く、とてもぐったりとしているのが特徴です。約1週間で、おさまりますが、肺炎や中耳炎をおこすこともよくあります。重篤な合併症として、脳炎や急性硬化性全脳炎（SSPE）などがありますし、死亡例も少なくありません。

【風疹】風疹は子どもにとってはおおむね軽い感染症です。

約2～3週間の潜伏期のあと、軽い風邪のような症状とともに、顔や体中に発疹（ほっしん、赤いブツブツ）があらわれます。後ろ頭や首のリンパ節がはれるのも特徴です。血小板減少性紫斑病や脳炎が合併症としておきることもあります。

最も問題なのは、妊娠初期の女性がかかったときで、心臓、目、耳などの異常をもった赤ちゃんが生まれる可能性が少なくありません（先天性風疹症候群）。このため、風疹の予防接種は主に赤ちゃんの異常を防ぐ目的でおこなわれています。

※鶏卵を使ってワクチンを作っているため、ごく微量ですがワクチン中に鶏卵の成分が入っている可能性もあります。もし鶏卵に対して強いアレルギーのある方は、注意して接種しますので、お申し出下さい。

麻疹・風疹混合予防接種

予防接種法による定期接種：

1期：生後12か月～24か月未満

2期：5歳以上7歳未満で、小学校就学前1年間

●2019年(平成31年)4月から6年間、2025年(令和7年)3月まで

5期：1962年(昭和37年)4月2日～1979年(昭和54年)4月1日生まれの男性が対象。

(風疹抗体陰性など条件があります)

※当初3年間限定でしたが、さらに3年間延長されました

予防接種を受けたあとの注意

※予防接種の副作用として、ごくまれに、注射の直後に急に具合が悪くなることもあります（アナフィラキシー・ショック）。万一のために15分程度は医院の中にご滞在いただき、そのあともしばらくは医院にすぐひきかえせるようにしてください。（その場で適切な処置をすれば、最悪の事態は避けられます。）

麻疹・風疹混合ワクチンは、弱毒化してある生ワクチンです。
ほかの予防接種は、4週間以上(※)たってから受けてください。

※接種の翌日から次の接種日の前日まで27日以上

麻疹・風疹混合ワクチン

- ①今日は激しい運動は避けてください。入浴はかまいません。
- ②注射したところが赤くなったり、腫れることはあまりありません。
- ③20%ぐらいの人に、接種後5～12日目（多くは7日目～10日目）に37.5℃以上の熱がでますが、ほとんどは38度前後です。また1～2日でおさまります。高熱になるのはわずかです。
- ④発熱した人のなかで、体などに発疹（ほっしん、赤いブツブツ）のでることがありますが、自然に消えます。（ほかの人に麻疹をうつすことはありません。）
- ⑤熱性けいれんをおこしやすい人は、あらかじめ医師に相談し、熱さましや、けいれんを予防する薬をもらっておいてください。
- ⑥【成人女性】接種前1か月、接種後2か月は妊娠しないように注意して下さい。また約1週間後に発熱、関節痛がおきやすいようです（通常の解熱鎮痛薬が使用できます）。